

第 34 回 岐阜県老健大会 参加報告

介護老人保健施設ひざし
事務長 鈴木晃市

令和元年 9 月 29 日（日）に多治見市のバロー文化ホールにて開催されました 「第 34 回 岐阜県老健大会」に参加してまいりました。

岐阜県老健大会は年 1 回開催され、県内の介護老人保健施設の職員が参加し、日頃の研究成果や取り組み内容等を発表（演題発表）し、県内老健職員の研鑽を図り良質な介護サービスの提供を目指すことを目的とされています。

今回はひざしが所属する東濃 B ブロック（多治見市、土岐市、瑞浪市）が運営当番ブロックであり、幹事施設である多治見の老健アルマ・マータを中心に、ひざしを含めた瑞浪市、土岐市、多治見市の老健スタッフが運営のサポートをさせていただきました。

当日は県内の介護老人保健施設から 400 名近くの職員が参加、多治見名物の「うながっば」も会場に現れ盛会となりました。

開会式では大会長、来賓挨拶に引き続き、永年勤続表彰が行われ、ひざしからは「20 年表彰」として 10 名、「10 年表彰」として 4 名の方が表彰を受けました。14 名のうち、大会に参加した 20 年勤続者は会場最前列にて会場の皆様より暖かい拍手を頂きました。

開会式の後、午前中は名古屋工業大学 教授 加藤昇平先生による「AI とロボティクスで社会の諸問題に挑む」をテーマとした特別講演がおこなわれました。

近年の介護業界において AI やロボットというキーワードは注目度が高く、また人口減少の社会構造の中でいかに業務負担軽減、業務効率化を行っていくのかという点において、介護業界のみならず全産業が AI やロボットなどの最先端技術に期待している現状の中、最前線でご活躍されている加藤先生による講演は非常に興味深く貴重な勉強の機会となりました。

午後からは第 1 分科会～第 6 分科会に分かれ、それぞれ異なるテーマにて各施設の研究発表が行われました。ひざしからは県内最多となる 4 演題を発表させていただきました。

ひざしの各フロアでスタッフが取り組んできた内容を、6 分間の演題としてまとめ、大会で発表することにおけるスタッフの緊張やプレッシャーは多大でありましたが、ひざし代表として各々が胸を張り堂々とした態度で臨むことが出来ました。スタッフ各人の成長を確認することができ、大変嬉しく思いました。

県老健大会に参加したスタッフにとって、新たな発見や気づき等、得るものが多かったと思います。他施設の優秀な取り組みや先進的な取り組みを認識したことで、更なるステップアップの道筋をイメージすることが出来たと思います。

学び得たものを今後のひざしのケアに反映し、利用者の笑顔、家族の笑顔、地域の笑顔、職員の笑顔につながる取り組みをスタッフ皆で力を合わせておこなっていきたいと思います。

